

修士課程2年栄梓儀

修論題目：生物的特徴に基づく鶴の物語の特性に関する研究——
日本、中国、アイヌの物語を対象に

要旨

日本文化では、鶴は縁起の良い鳥、霊鳥と呼ばれて、物語の中では多く吉祥、幸福などのイメージで描かれることが多い。中国文化では、鶴は仙禽、仙人の仲間、さらには仙人の象徴とされ、物語の中には多く吉祥、幸福などイメージで描かれることが多い。しかし、アイヌの物語では、鶴は、あるときは人々に救いを与える「湿地の神」として、またあるときは人々を害し、地下の国に住む悪神として、全く異なる描かれ方をしている。本研究では、日本、中国、アイヌの鶴の物語を収集し、生物的特徴をふまえた分析を通じて、各文化の物語における鶴の特徴を明らかにすることを目的とする。

鶴のイメージは鶴の物語にも反映されている、しかし、文化によって偏りのある要素も異なる。日本、中国、アイヌの鶴の物語を研究対象として、物語の中からいくつかの要素を抜き出し、整理し、分析した。3つの文化に対応する要素を比較して、日本、中国、アイヌによる鶴の物語の創作の多くが、鶴の生物的特徴に基づいていることを発見した。歴史、地理、宗教などの影響だけでなく、日本、中国、アイヌの鶴の生物的特徴の描写の偏りも、鶴の物語の異なるを生み出す要因の1つとなっている。

日本、中国、アイヌの鶴の物語では、日本の鶴の物語は肉眼で見ることに重きを置いている。中国は鶴の物語を作る際に、鶴の外見だけでなく、生き物としての習性にも着目し、さらに神仙、吉祥という思想が入り混じっている。アイヌの物語は鶴との出会いのたびに、本当にあったことを物語として創作している。いずれも鶴自身を基礎にして、自身の文化の影響の下で、独自の特色を創作した鶴の物語である。